

# 広島芸術学会活動報告

令和三（二〇二一）年七月一日～令和四（二〇二二）年六月三十日

▼令和三年八月十六日

会報第一六一号を発行。

▼令和三年九月一日付で「藝術研究 2021」（年報第三十四号）を発行した。

▼令和三年九月四日

令和三年度総会・第三五回大会を開催した（ウェブ会議システム Zoom を用いたオンラインによる開催）。総会参加者数は二十七名、大会参加者数は二十七名。

令和三年度総会は、関村誠事務局長の開会のことば、青木孝夫会長の挨拶の後、大島徹也を議長に選出し議事を進めた。まず、第一号議案「令和二年度事業報告並びに決算について」について、資料にもとづき事業報告および決算報告が関村事務局長からなされ、続いて、古谷可由監査および船田奇岑監査による監査の報告が船田監査よりなされ、審議の結果、承認された。次に、第二号議案「令和三年度事業計画並びに予算案について」について、資料にもとづき事業計画および予算案が関村事務局長から説明され、審議の結果、承認された。すべての議事審議が終了後、青木会長の挨拶があり、

閉会した。

第三五回大会は、研究発表（二件）とシンポジウムを行った。研究発表は、①城市真理子（広島市立大学）「佛通寺含暉院伝来の文化財の史的意義——雲谷等顔筆襖絵を中心に——」、②森田美樹（広島市立大学 元協力研究員）「国際敦煌プロジェクトと Georgetown-IDP Project——北米所蔵の中国北西部シルクロード関連文物について」。シンポジウムは、「コロナ禍に見る音楽・音楽教育活動の課題と可能性」をテーマとし、パネリストは能登原由美（大阪音楽大学／京都市立芸術大学・非常勤講師）、寺沢希（合唱指揮者・エリザベト音楽大学非常勤講師）、大島衣恵（喜多流能楽師）、寺内大輔（広島大学 作曲、即興演奏、音楽教育）の四名、趣旨説明・司会は、岡田陽子（エリザベト音楽大学）、馬場有里子（エリザベト音楽大学）。

▼令和三年十月六日

会報第一六二号を発行。

▼令和三年十二月一日

会報第一六三号を発行。

▼令和三年十二月十八日

第一三三回例会を開催した（ウェブ会議システムZoomを用いたオンラインによる開催）。研究発表は、①石谷治寛（広島市立大学）「移動するコピーマシーンから主体化の装置へ——ダムタイプ」「Hプロジエクト」、②青木隆幸（海の見える杜美術館）「引札の美術——明治期 年末年始に配布された引札を中心に——」。参加者数は二十四名。

▼令和四年三月十九日

会報第一六四号を発行。

▼令和四年四月九日

第一三四回例会を開催した（ウェブ会議システムZoomを用いたオンラインによる開催）。研究発表は、①細萱航平（宮城県美術館）「記憶の表象を探すふるまい 佐竹真紀子の絵画について」、②大石和久（北海学園大学）「イメージと魔術——アンドレ・バザンとジャン＝ポール・サルトル」。参加者数は十九名。

◆会員状況

令和四年六月三十日現在、法人会員二法人、個人会員百五十四名（一般会員百二十三名、学生会員三十一名）

※文中、敬称を略させていただきました。また、肩書きは当時のものです。

事務局